

平成 25 年 4 月 2 日

# 南の風 35

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

いよいよ新年度のスタートです。本年度も『南の風』で好き勝手を書くかもしれませんが、どうぞよろしくをお願いします。まずは全国大会の様子からです。

今年も代々木第1、第2の体育館は、選手の熱気溢れる全力プレイと、応援の皆さんの熱狂的な声援で3日間興奮のつぼでした。男女それぞれ48のチームが、1年間の集大成として鎬を削りました。

さて、その中で神奈川県代表の男子の豊田、女子の若松が大健闘してくれました。まず豊田は、見事予選を勝ち抜き決勝トーナメントに出場しました。準決勝では、石川県のチームと対戦し前半は30対22でリードしていました。後半は接戦となり、両者一步も譲らず延長戦に入り、惜しくも1ゴール差で敗れてしまいました。一方女子の若松は、危なげなく予選を突破し決勝トーナメントに進みました。準決勝でも奈良県のチームを退け、見事決勝に進出しました。決勝の相手は、過去2回全国大会で優勝している大阪の強豪です。前半は両チーム持ち味を発揮し17対17の同点で終了しました。3Qは一進一退となり、若松3点リードで4Qに入りました。4Qに入ると、ディフェンスの足が止まってしまった若松は、相手にリバウンドからの速攻や、パスカットからの得点を許し徐々にリードを広げられ、残念ながら44対32で敗れました。

豊田チームと若松チームの選手の皆さん、そして保護者会の皆様、本当お疲れ様でした。両チームの皆さんの大活躍と一つ一つの熱いプレイに、我々神奈川県ミニバスケットボール関係者は、大いなる感動と勇気をいただきました。本当にありがとうございました。

そして最後に、男女それぞれ4ブロックの内、優勝したチームは男子2、女子3が関東のチームであったことを記しておきます。関東のレベルの高さを感じました。

ここで観戦した感想を書きます。

一番に感じたことは、男女を通してジャンプショットとミドルショットの精度が、格段に飛躍したことです。特に、ペリメタでの距離のあるジャンプショットの確率が上がりました。もちろん、カットインでディフェンスをブラッシュして、ドライブインすることも重要なスキルですが、ドリブルストップジャンプショットというスキルは、それにもまして質の高いスキルです。予選を通過したほとんどのチームが、このプレイを武器にしていました。長身者がゴール下で守るゾーンのようなディフェンスの場合、ドライブインやポストプレイが機能しない場合の時、有効なプレイです。しかしながら、ゲームで確率を上げるためには、正しいフォームの体得と打ち込みが欠かせません。以前、南の風でも『ジャンプショット』のことに触れましたが、改めて大切さに気付かされました。

一方課題となるのがディフェンスです。まず1対1の1線の守りです。どの距離で守るかです。ボールを自由にさせない距離、『ワンアーム』です。オフェンスのプレイを封じるために、この距離を保ち続けることが大事です。どうしてもディフェンスは、ワンアームより近づくと膝が伸びてしまう傾向があります。**ワンアームの距離を維持する練習が一つのポイント**です。オフェンスに簡単にトリプルスレットさせない、またよいシュートタイミングを取らせないことが益々重要になります。また次号で。